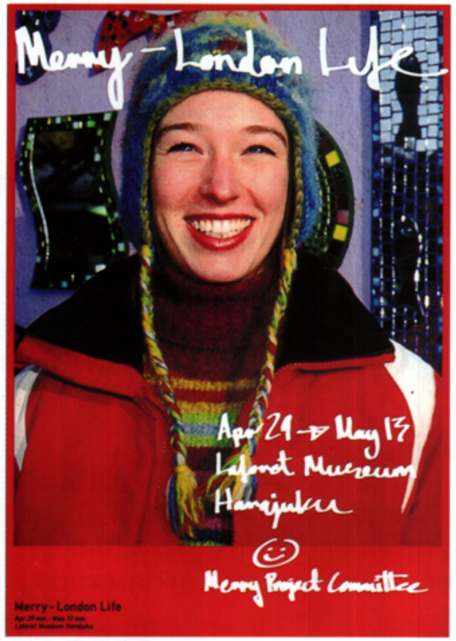
COLUMN
ニュースな言葉

春になり、様々なイベントが始まる。その一つに、昨年「ブレーン」でレポートした、アートディレクター水谷孝次氏の企画による「Merry」がある。今年は東京とロンドンを繋ぎ、さらに進化した形で行われる。

「いま、繋がりたい」　Merry-London Life



2001年５月、装いを新たにしたラフォーレ原宿に、あの“Merry”が帰ってくる。2000年１月にラフォーレ原宿を訪れる少女たちを魅了した、あの“Merry”が今度はロンドンの笑顔を連れて帰ってくるというではないか。

「Merryのコミュニケーションは日本に限ったものではありません。多くのアーティストや企業を巻き込みながら、Merryの輪をどんどん広げていきたい」と言うのは、「Merry」を企画した水谷孝次氏。昨年開催された「Merry」は、水谷氏自らが撮影した少女たちの写真を大判プリンターを使って、B全大にプリントアウト。そこに彼女たちが手描きで一言加えたものがポスターとしてラフォーレミュージアムやラフォーレ館内のいたるところに貼られることになった。２週間足らずのイベントだったにも関わらず、この場で撮影されたのは2,033人。これまでにない手法と企画の面白さが各方面で話題を呼び、昨年末にはアートブックも発売された。

そして、日英同盟100周年記念となる2001年、イギリスでは“Japan Year”として日本をテーマにしたイベントが各地で開催される。その一つとして、５月にロンドンの有名百貨店セルフリッジで開催される企画「TOKYO LIFE」で、Merryがメイン企画に抜擢。ロンドンでデビューを果たすことになった。

今回は、東京のラフォーレミュージアム原宿とロンドンのセルフリッジをインターネットで繋ぐ交歓イベントを同時開催。デジタルカメラで撮影された人々の映像や、被写体となった人たちから受け取った手書きの元気メッセージ、「Merryワード」が会場の大型ビデオプロジェクターで再生されるだけではなく、専用サーバーを通して、双方に配信される。ロンドンと東京、展示する側と観客、あるいは観客と観客、言葉や国を超えて映像や言葉の交換が行われ、新しいコミュニケーションが生まれる場となるのだ。

「僕は広告の仕事もしているので、それを否定するつもりはありませんが、たとえば企業のポスターつくると、企画からプレゼンを経て、完成するまでに何か月もかかったりします。でも、いまは起こったことを瞬時にコミュニケートしなくてはいけない時代。21世紀型の広告やデザインやアートの表現方法から、スピードとライブとリアリティのある表現方法へ移る過渡期ではないかと思っているんです。Merryというコンセプトのもとに、いまの時代のコミュニケーションをアートとして表現できたらと思い、企画したのが今回のMerry展です」

会場を構成するのは、話題のクライン・ダイサム・アーキテクツ。会場のテーマは「LONDON PARKS」。そこにはデッキチェアーが置かれ、ピクニックに行った時のような楽しく、ラブリーな空間がつくられるという。さらにロンドンの展示では、ロンドンで活躍するクリエイターたちが自ら企画構成する展示ブースも設けられ、彼らの「LONDON LIFE」を垣間見ることができる。

「広告の仕事をしていると、どうしても職人的な部分や質にこだわる部分がでてきてしまう。でも、そういうところとは違う、どんな人とでも心と心が通じあうような、誰が見てもすぐわかるようなコミュニケーションをつくりたい。それを、このMerryで実現していければと考えています」

「Merry-London　Life」は４月29日～５月13日まで東京・ラフォーレミュージアム原宿（03-3475-0411）にて、「TOKYO LIFE」は５月１日～31日までロンドン・セルフリッジ百貨店にて開催される。また、このイベントに先立ち、Merryのホームページでは、Merryワードを募集中。詳しくは、http://www.21merry.netまで。

「Merryを通して、企業の新しい広告の在り方も見つけていけるのではないかと思っています」という水谷氏。この企画に賛同した東京めたりっく通信、富士写真フイルムといった企業が、今回、制作に協力している。